

IV-72

徳島県の観光・レク振興の方向

徳島大学工学部 正員 定井喜明
 徳島大学大学院 ○岡田 浩
 徳島県土木部 松本理円

1. はじめに 平成9年度に供用が予定されている明石海峡大橋によって、徳島県は、阪神地区から片道3時間の日帰り圏内になるので関西からの観光入込客をターゲットとした観光・レク振興の具体的方策の推進が早急に求められている。そこで筆者らは、徳島県が昭和63年7月～8月にかけて実施した「徳島の観光アンケート調査」の結果を分析して、廿一世紀に向けての徳島県の観光・レク振興の具体的方向を提示せんとしたものである。

2. 調査の概要 この「徳島の観光アンケート調査」は、徳島県観光物産課が、県内のホテル・旅館・公営宿舍・観光施設・フェリー・観光船などを利用している人に対し、任意に調査票を配付・回収したものであり、調査内容は、旅行目的、宿泊場所、周遊地域などと固有属性で、14項目からなっている。有効サンプル数3,006を得ている。性別では、男が62.7%、女37.3%、年齢別は10才代が17.8%、20才代が21.0%、30才代が26.0%、40才代が19.2%、50才代以上が16.0%であった。また居住地別では、関西が43.0%、関東が12.8%、徳島県内が11.6%、四国の他の3県が8.5%、中国が8.2%、中京・東海が5.7%であった。職業別では、会社員が32.4%、学生が21.0%、公務員が13.5%、主婦が11.2%であった。

3. 観光需要の構造 徳島県への観光入込客の行動・意識・属性の構造を知るため、徳島県を居住地とする人を除き、複数回答により増加した39の細分調査項目(アイテム)の分類(カテゴリー)125を用いて数量化理論Ⅲ類分析を行った。その結果得られた第Ⅰ軸(X1)と第Ⅱ軸(X2)の平面に、その125アイテム・カテゴリーの分布を示したのが図-1である。図-1のX1軸は、その両端のカテゴリー分布から居住地を表わす軸と考えられ、右側程、徳島県から遠い距離にある地域を示している。同じくX2軸は年齢を表わす軸と考えられ、上端程、年齢が若い層を示している。

この図-1の125アイテム・カテゴリー分布に最遠距離法によるクラスター分析を行ったところ、同じ図-1に実線で囲んで示したように、A～Dの四つのグループに分けられることがわかった。この四つのグループに属するアイ

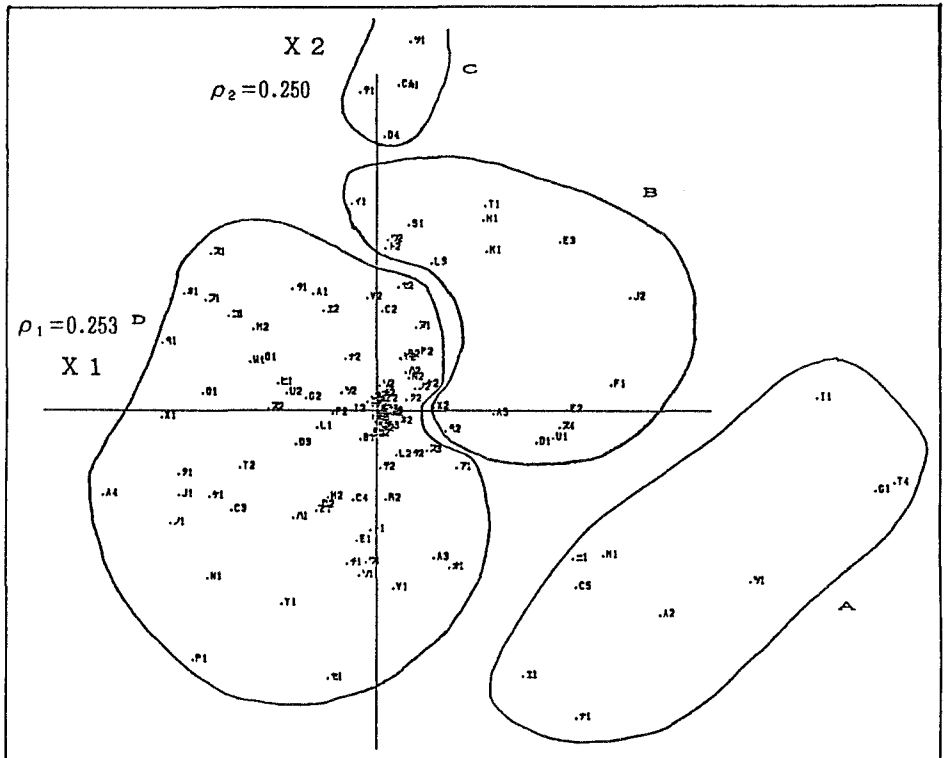


図-1 数量化理論Ⅲ類分析による第Ⅰ軸X1と第Ⅱ軸X2平面における125のアイテム・カテゴリー分布

テム・カテゴリーの一覧表を示すと表-1のとおりである。これらのグループに属する人々の割合は、居住地ベースで考えると、Aが11.6%、Bが14.9%、Dが73.5%であるので、徳島県の観光・レク振興方策はDグループを重点対象として進めればよいといえる。従って、その具体的方策は、表-1のDグループ特性に基づく対応策を推進すればよいといえる。すなわち、自家用車などで家族かグループで来県し、自然風景の観光やスポーツをし、3泊4日以内で県南部を周遊する人々であるから、道路の整備と美しい自然風景の開発とスポーツ施設の充実、特に南部でマリンスポーツ施設を整備し、家族

表-1 数量化理論Ⅲ類分析による徳島県への観光入込客のグループ特性一覧表

アイテム	カテゴリー			
	グループA	グループB	グループC	グループD
居住地域	北海道、東北、甲信越、北陸、中京・東海	関東		関西、中国、九州、四国(徳島除く)
性別	男性、女性			
年齢	50歳以上		10歳以上20歳未満	20歳以上50歳未満
旅行目的		仕事、仕事兼観光	帰省、その他	観光
交通機関	バス、飛行機	JR 船・フェリー		自家用車
宿泊日数		4泊5日以上		3泊4日以内
宿泊場所	旅館・ホテル		実家、友人・知人宅	
旅行形態	団体、招待	1人		家族、グループ
周遊地		徳島市周辺		県南部
観光行動	名所旧跡を見る		祭り・行事 ○○狩り	自然風景 スポーツ
旅行予算		5万円以上		5万円未満
情報源	旅行業者			
観光旅行に対する希望	名所旧跡 神・仏の詣			美しい自然風景

4. 固有属性別特性と対応

数量化理論Ⅲ類分析によって、徳島県への観光需要は居住地と年齢の二つを主骨格として構成されていることがわかったので、この二つと性別を加えた三元配置の分散分析を旅行形態（1人、家族、グループ）、徳島の観光に関する情報源（雑誌・ガイドブック）、観光旅行に対する希望（美しい自然風景、郷土料理）

表-2 居住地別・観光行動別の有意に多い性別、年齢層一覧表

居住地	旅行形態			情報源：雑誌・ガイドブック	
	1人	家族	グループ	観光旅行への希望：郷土料理	
関東を除く名古屋以東	男性	男性, 10才代, 50才代以上	男性, 30才代	男性	40才代, 50才代以上
関東		40才代	50才代以上		20才代
関西	男性		10才代	男性	40才代
中国・九州		男性, 30才代, 50才代以上	40才代, 50才代以上		50才代以上
徳島県を除く四国	女性	20才代, 30才代	女性, 30才代	女性	20才代
徳島県	女性	20才代, 30才代	女性, 10才代	女性	10才代, 30才代
表頭の対象人数	499人	1381人	554人	838人	716人
交互作用の有意水準	**	*	**	**	*

作用の有意なものに対するクロス集計分析を行い、有意に多いといえる上記の3アイテム・5カテゴリーを示すと表-2のとおりである。つまり、この表-2から徳島の観光・レクを雑誌・ガイドブックでPRするとき、旅行形態と観光商品に応じて、地域別にターゲットとすべき性別と年齢層が明らかになり、徳島県の観光・レク振興の戦略の一部が示されたと考えられる。

5. あとがき 本研究の結果から、今後アンケート調査を実施するときには、アンケート調査項目の増加と系統化を図る一方、多段式無作為抽出などとして、資料の充実と精度の向上を図るとともに、より具体的振興施策が導出できるような調査・分析が進展される。